

レポート

生まれ変わる“政令市”の顔

仕上げ急ピッチ 熊本駅東口

建設進む「くまもと森都心」

熊本駅東口では、駅周辺工事に伴い、駅構内に入る迂回路や歩道が複雑に入り組み、生まれ変わる熊本駅周辺を象徴するような元気の音が響く。

現駅ビル「フレスタ」前には、市電などを待つ人が日差しや雨を避ける扇状の大屋根ができ、熊本駅と駅前再開発ビルを結ぶペDESTリアンデッキが架設。JR熊本駅前のバス停は、市中心部から北東方面に向かう路線の停留所が2カ所に分散し、交通センターを経由する路線や空港リムジンバスはホテルニューオータニ南側に、県外行きはJR九州ホテルそばに新設された。

東口駅前広場は、九州新幹線開業に合わせた「暫定形」として整備。駅舎を含めた在来線の高架事業が完了する17年ごろに現駅ビル「フレスタ」を取り壊し、建築家の安藤忠雄氏設計による新熊本駅舎を建設。2018年ごろに全ての工事が完了する予定だ。

んだ左側一体で進められていて、熊本駅東口A地区の再開発ビル「くまもと森都心」は、ランドマークとなる地上35階建ての超高層マンション「ザ・熊本タワー」が25階部分まで建ち上がっている。

この再開発ビルはA棟（公益・商業棟）、B棟（権利者棟）、C棟（超高層住宅棟）の3棟で構成され、全体が完成するのは新幹線開業1年後の12年3月の予定。A棟地下1階・地上6階建ては事業主体である熊本市が観光情報発信施設や情報図書館、ビジネス支援センター、多目的ホールなどを整備。一部は11年秋に先行オープンする。



九州新幹線関連工事に伴い、駅構内に入る迂回路や歩道が複雑に入り組む熊本駅東口周辺

駅前東A地区で建設が進む再開発ビル（約1.4ha、延べ床面積5万1900㎡）。手前が6階建てのA棟。その奥が地上35階建ての「ザ・熊本タワー」で、現在、大型クレーンで25階近くまで建ち上がっている



現駅ビル「フレスタ」前には、扇状の大屋根や熊本駅と駅前再開発ビルを結ぶペDESTリアンデッキが架設され、熊本の新しい顔づくりが急ピッチで進んでいる

A H A P P Y N E W Y E A R

感性の提案。そして、無限の可能性。

人は今、何を考え、何を求めているのか？
 社会は今、何を求めているのか？
 時代は今、まさに混惑の時代。
 こういう時代だからこそ、私たちは360°の視点をもって、
 人と人のつながりを大切に、効果のある広告づくりを目指します。
 そして、お役に立ちたいと考えています。

感性の提案

無限の可能性

謹賀新年

平素よりご愛顧を賜り誠に有難うございます。本年も相変わらずお引き立ての程よろしくお願ひ申し上げます。